



2025 年 10 月 14 日

各 位

会 社 名 ス テ ラ フ ァ ー マ 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 上 原 幸 樹
(コード番号：4888 東証グロース)
問 合 せ 先 管 理 本 部 長 伊 神 尚
(TEL 06-4707-1516)

通期業績予想及び中期経営計画の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2025 年 5 月 9 日に公表いたしました 2026 年 3 月期の通期業績予想と、2024 年 5 月 31 日に公表いたしました「中期経営計画 2027 策定に関するお知らせ」に記載しております中期経営計画における最終年度の目標数値を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想の修正について

(1) 2026 年 3 月期 通期業績予想の修正 (2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,007	△348	△345	△348	△10.23
今回修正予想 (B)	377	△922	△908	△911	△26.80
増減額 (B－A)	△629	△574	△563	△563	
増減率 (%)	△62.5	－	－	－	
(ご参考) 前期実績 (2025 年 3 月期)	961	△90	△137	△140	△4.22

(2) 業績予想修正の理由

国内売上高につきましては、国内における BNCT の症例数が堅調に推移していることから、当初予想のまま据え置いております。

一方、海外売上高につきましては、中華人民共和国（以下「中国」）の鵬博（海南）礪中子医療科技有限公司（以下「Pengbo 社」）に対する BNCT 用ホウ素医薬品「ステボロニン®」（以下「当社製品」）の販売を予定していたところ、2024 年 10 月に発生した自然災害に起因して同社の治療施設の稼働が想定より遅れており、2026 年 3 月期の下半期に出荷を見込んでいましたが、稼働はさらに 2026 年にずれ込む可能性が高まっています。そのため、2025 年 3 月に出荷した当社製品の全量を保有している状況となっていることに加え、同社が復旧工事等への資金需要の拡大などに対応するため資金計画での調整を行っていることもあり、2025 年 3 月の初回出荷分に係る売掛金について、本日時点において一部の回収に留まっていること、また当社としても製造委託先の製造停止が生じたことによる安定供給体制の再構築が必要であることから、2026 年 3 月期における同社に対する当社製品の販売を見送ることとなりました。同時に、同社に対する売掛金は、同社との長期的な契約を背景とした互いの個別事情も勘案しつつ、段階的に返済を受ける方向で協議を継続しております。

なお、同社に対する売掛金については、契約に基づき予め本売掛金未回収分の金額以上の保証金（約 1,000 百万円）を受領しているため、現時点において売掛金未回収による損失は発生しておらず、財務上の影響も限定的と判断しております。

結果として、2026 年 3 月期における売上高は 629 百万円減少する見込みとなりました。

また、すでに公表しましたとおり、製造委託先の製造停止が生じたことによる安定供給体制の再構築が必要であることから、新たな製造委託先と長期的な安定供給を目的とした製造体制の構築に向けて開発委託契約を締結し、安定供給体制構築を最優先課題として取り組んでおります。この開発活動により、費用面においては、規制当局からの承認取得に必要な試作品製造やデータ取得に係る委託費等として約 80 百万円の研究開発費を計上する見込みとなりました。当社全体で経費削減に努めてまいりましたが減収等による減益をカバーできず、結果として、2026 年 3 月期の営業損失は 574 百万円、経常損失は 563 百万円、当期純損失は 563 百万円、いずれも前回予想より増加する見込みとなりました。

2. 中期経営計画の修正について

(1) 2027 年 3 月期 中期経営計画目標数値の修正（2026 年 4 月 1 日～2027 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益
	百万円	百万円
前回計画（A）	1,651	129
修正計画（B）	1,038	△689
増減額（B－A）	△613	△818

(2) 修正の理由

当社では新たな製造委託先での生産開始に向けた取り組みを最優先とするものの、前述のように海外売上高について Pengbo 社の運営する治療施設の稼働が予定より遅延していることや、現時点では出荷再開時期が流動的であることもあり、2027 年 3 月期 中期経営計画目標売上高に織り込んでいる海外向け当社製品について当初計画通りの販売が難しく、計画を 1 年程度後ろ倒しするべきと判断いたしました。加えて費用面では、今後、新たな製造委託先への移管作業が本格化することになるため、当初計画に比べ 300 百万円程度研究開発費が増加し、当該事業年度の損失が拡大する見込みとなりました。これを前提にしてその他すべての経費の見直しを行った結果、中期経営計画の最終年度となる 2027 年 3 月期の目標数値の達成は困難であると判断し、上記のとおり修正いたします。

以上のことから、当社の 2026 年 3 月期の通期業績、2027 年 3 月期の中期経営計画目標数値は、いずれも当初予想を下回る見込みとなりました。まずは、主な要因である製造委託先の自己破産に端を発した製造体制の再構築に全力で取り組むとともに、今回の製造委託先の変更を契機とし、拡大する BNCT 市場に対して、高品質な製品を安定供給できる体制を構築するよう努めてまいります。

一方で、現在も進行中のパイプライン拡充に向けた研究開発活動は順調に進んでおり、Pengbo 社の運営する治療施設の稼働準備も進展しています。

本件で経営成績への影響を及ぼす可能性はあるものの、国内外の長期的な事業環境は着実に整いつつあり、当社の持続的な成長は、引き続き大きく期待できるものと考えております。

つきましては、当初 2027 年 3 月期を目標としておりました黒字化は、本件の影響を考慮し、1 年遅れの 2028 年 3 月期に達成することを新たな目標として取り組んでまいりますので、株主をはじめとする関係者の皆様には、引き続きのご支援とご理解を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

（注）本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、その達成を当社としてお約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、今後の様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上